

安心のネットワーク
NOSAI

No.3

農業技術情報

令和6年5月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



葉いもち防除は予防第一で

いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。昨年の発生地域を中心に警戒を怠らずに徹底防除をしてください。

補植用余り苗は速やかに処分

補植用余り苗は、圃場にあるだけでもいもち病の伝染源となります。補植作業が終わったら、ただちに土中に埋没するなど確実に処分してください。

もしも、見つけたら。。。

いもち病を見つけたら速やかに予防剤と治療剤の混合剤の茎葉散布を行います。併せて、指導機関やJAへご相談ください。

ほ場の“密”にご注意を

田植え時に苗が重なって密植になっている箇所や、肥料が重なり葉色が濃密になっている箇所等“密”圃場を中心に、いもち病無防除圃場の隣接圃場も合わせて、定期的に病斑が発生していないか様子を確認してください。

主食用米以外もいもち防除を

WCSや飼料用米等のほ場でもいもち防除を必ず行ってください。

葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用を行っていない場合は必ずオリゼメートを散布してください。

薬品名	オリゼメート粒剤（予防）
散布時期	6月15日頃（6/12～6/18）
散布量	2～3kg/10a

緊急対策時（例）

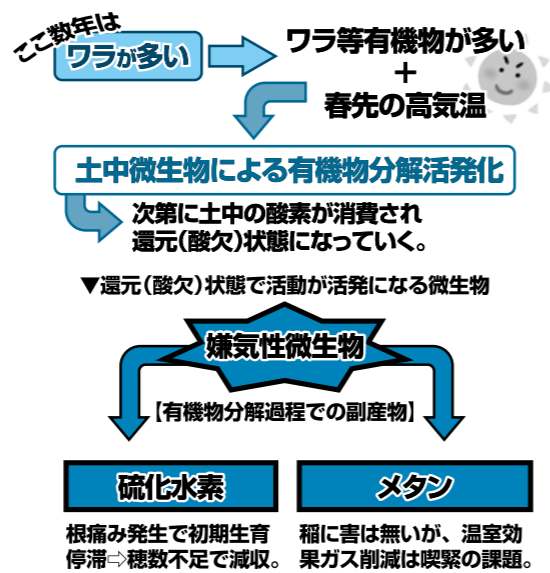
薬品名	散布時期	散布量
ブラシン （予防・治療）	発生確認時	粉剤DL：3～4kg/10a フロアブル：1,000倍液 60～150リットル/10a

異常還元対策をして初期分けつを確保する

初期茎数を確保できなければ穂数不足につながり、収量不足となってしまいます。初期茎数をある程度確保しておきたいのですが、ここ数年は前年ワラが多く、気温も高いことで、異常還元（ワキ）の発生により、分けつが取れにくい状況が続いています。

異常還元は、有機物分解の過程で土中の酸素が少なくなり還元（酸欠）状態になると発生します。定期的に土中に酸素を供給し、ガスを抜く水管理が必要になります。

また、異常還元の過程で根痛みの原因となる硫化水素のほかに、温室効果ガス「メタン」も排出されます。異常還元発生程度の大小はあれども、分けつ促進と持続的な稲作農業の実現のためにも対策を取らなければなりません。



水管理

常時湛水ではなく、田面を一時的に露出させる間断かん水や、土壌の湿潤状態を保つ飽水管理を行う。

追肥

生育停滞しているようなら、硫安（現物5～10kg/10a）を追肥する。

農薬の適正使用と適正処分をお願いします。

誤使用が無いように使用前に必ずラベルを確認しましょう。
農薬飛散（ドリフト）が無いように天気や散布ほ場周辺作物の確認をしましょう。
農薬使用時は作業に適した保護具を着用しましょう。
農薬は使い切りを基本とします。
散布器具を洗浄し、洗浄液が水系に流出しないようにしましょう。

適期田植え、栽植密度調整で生育量確保 除草剤適期散布遅れ、異常還元要注意！

年明け以降、高温と低温が交互におとずれており、今年も異常気象であることを体感しています。異常気象への対策は、基本技術を実践していくことです。健苗育成や圃場準備から始まり、水管理や肥培管理、防除をイネに合わせて管理していかなければなりません。温暖化気候のため、イネの生育も前進傾向にあります。これまでどおりの作業ではなく、適期作業ができるようにイネを観察してください。

今月は育苗と田植え作業があります。先人からの教えのとおり苗半作と言われるほど重要な時期ですので、育苗ハウス内温度管理の徹底や追肥などして健苗に育て上げて、田植え後の素早い活着でスタートさせましょう。

今月の栽培技術留意点

健苗育成

苗が栄養不足状態で田植えをすると活着（発根）に時間がかかってしまい初期生育に影響します。田植えの1週間前に弁当肥として追肥を行ってください。近年は田植え時期に低温遭遇や異常還元が発生し、初期生育に影響することが多くあります。初期生育確保のためにも、育苗追肥は必ず行いましょう。

育苗期追肥の目安（箱当たり窒素g）

葉 齢	稚 苗	中 苗
1.5 葉 期	1 g	—
2.0 葉 期	—	1 g
3.0 葉 期	—	1 g

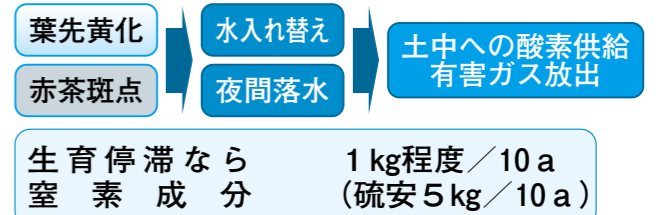
育苗追肥資材例

資 材 名	現物量	窒素成分	水 量
液 肥 2 号	10ml	1.0 g	1,000ml
サイコー11号	8 g	1.04 g	—

※サイコー11号は散布後にかん水を行います。

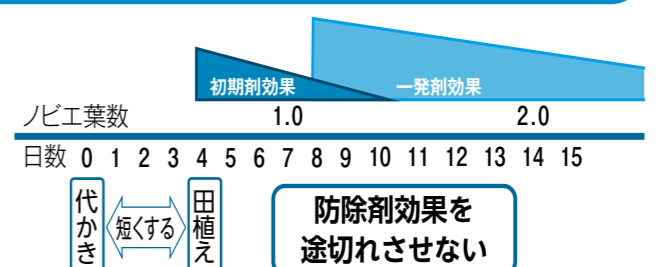
異常還元（ワキ）注意報

本年も異常還元（ワキ）が早期から発生すると予想しています。気温上昇とともに土中の未熟有機物の分解が始まり、ガス発生や土中が酸欠状態となり稲の生育に影響を及ぼします。ポイントは土中の酸素です。土を酸化的状態にすることで抑えられるので実践してみましょう。



雑草対策

4月に入ってから高温が続いているため雑草の生育進度は早くなると見込まれます。代かきと田植えの期間をできる限り短くし、早期に除草剤を散布してください。田面に雑草が見えてからの散布ではタイミングを逃してしまいます。初期剤の残効があるうちに一発剤を散布し、除草効果期間を重ねて途切れさせないようにすることがポイントです。



初期生育確保に向けてスタートダッシュ

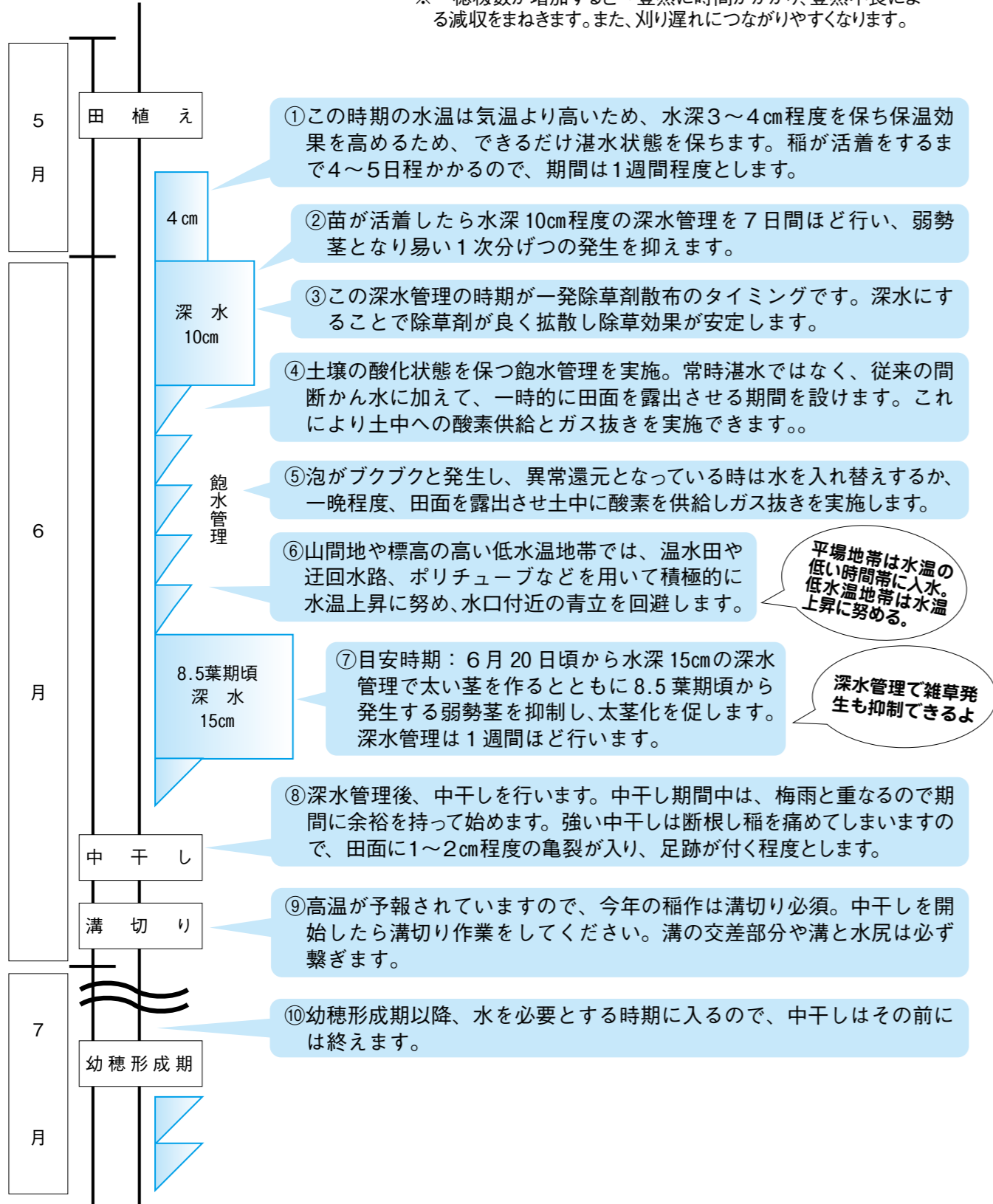
穂の絶対数が少なければ、いくら籾数を多くしても高収量は望めません。分けつ開始から穂数がほぼ決まる7月中旬までにどれだけ必要な茎数を確保できるかがポイントです。初期生育を旺盛にする水管理を心がけてください。

収量計算方程式

$$\text{収量} = \text{穂数} \times \text{籾数} \times \text{登熟歩合} \times \text{千粒重}$$

↑重要!!

※一穂籾数が増加すると→登熟に時間がかかり、登熟不良による減収をまねきます。また、刈り遅れにつながりやすくなります。



除草剤を効果的に効かせるポイント

暖かい日が続いているため、雑草の生育進捗が早くなり、除草剤の散布遅れが心配されます。いくら高価な除草剤でも使用時期が遅れたり、田面均平が悪かったり、部分的に水がかからない（露出している）場合、除草剤の効果は十分に発揮されません。

少し早めの散布を！

ラベルに3葉期までと記載されているものでも、0.5~1.0葉程度早め、5日程早めのタイミングで散布することで、除草剤の効果が安定し、雑草密度を大幅に減少させることができます。（注：代かきから10日間でノビエは2葉期頃になります。）

漏水箇所の点検保守を！

除草剤散布後、葉の層（処理層）が田面に出来るまでおよそ4日かかります。漏水箇所があると処理層の形成がうまくできず効果が発揮されません。

計画的な作業を！

除草剤効果を一番発揮させるポイントは「タイミング」です。今年は雑草の動きも早いとみられることから散布遅れにならないように、代かき日、田植え日、初期剤散布日、一発剤散布日をしっかりと把握し計画的な作業をお願いします。

水深5cm以上の確保を！

除草剤成分が拡散していくためには、水深5cm以上の確保が必要です。フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤は7cm以上の水深で拡散が安定します。田面が水面から露出しないようにしてください。

⚠️ 表層剥離（カナ）注意報

今年は異常還元（ワキ）に注意が必要ですが、合わせて表層剥離（カナ）の発生にも注意が必要です。カナは除草剤の処理層を壊してしまうため、除草剤の散布タイミングに注意をしてください。

ポイント 降雨後に除草剤散布

除草剤散布前に水入れ替え

※次の場合、表層剥離の発生が多くなります。
 ・土中の窒素やリン酸が多い場合。
 ・側条施肥田植えで、土の戻りが悪く表面に肥料が表われる場合。



- 斑点米増加で落等
- 異物(雑草種子)混入
- 収量品質が低下

収入減少

だから、雑草防除が必要なのです!

とりこぼしたら中後期除草剤

薬剤名	ノビエ	ホタルイ	オモダカ	コナギ	散布方法	成分回数
トドメMF	5~7葉期まで (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
クリンチャー	4~6葉期 (剤型による)	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
ヒエクリーン	4葉期まで	効果なし	効果なし	効果なし	湛水散布	1
バサグラン	効果なし	増殖中期まで	発生前期まで	○	落水散布	1
アトトリ	4葉期まで	効果なし	矢尻葉3葉期まで	効果なし	湛水散布	1
ヒエクリーン バサグラン	4葉期まで	4葉期まで	矢尻葉抽出期まで	○	極浅く湛水	2
クリンチャーパス	5葉期まで	増殖中期まで	発生盛期まで	○	落水・極浅く湛水	2
レブラス	4葉期まで	花茎10cmまで	矢尻葉3葉期まで	6葉期まで	湛水散布	4
バイスコープ	効果なし	草丈15cmまで	矢尻葉5葉期まで	3葉期まで	湛水散布	2